

# 「市民100人会議」意見等の検討状況

## 1 概要

4月23日(水)・24日(木)の18:30~20:30に「市民100人会議」をかごしま市民福祉プラザで開催しました。

1日目は、合併に関するこれまでの取組み状況及び本市や5町のまちづくり計画策定方針の概要説明と質疑応答を行い、2日目は「行政一般」、「生活環境」、「産業経済」、「都市整備」、「教育、文化」の5つのグループに分かれて、合併後のまちづくりに関し、参加者(82名)からそれぞれ意見を述べてもらいました。

## 2 検討状況

### (1) グループにおける意見等の検討状況

「行政一般」	1 P (25件)	} 計159件	} 合計172件
「生活環境」	4 P (40件)		
「産業経済」	9 P (33件)		
「都市整備」	14 P (14件)		
「教育、文化」	16 P (47件)		

### (2) アンケートに記載された意見等の検討状況..... 21 P (13件)

# 合併対策室

〔行政一般〕グループにおける意見等の検討状況

番号	意見の内容	所管専門部会	検討状況
1	聴覚障害者に対して、火事や災害があったときに、すぐ連絡が届く仕組みをつくってほしい。まわりの音が聞こえないと、隣りの家で火事があっても、なかなかわからないので、例えば、携帯電話にメールで連絡が届くとか、そういう仕組みがあればいいと思う。	消防・健康福祉	【消防】 現在、ファクシミリでの通報を受信する体制は整備しているが、携帯電話のメール連絡については、合併に関係なく今後取組むべき検討課題とする。このことについては、隣保共助体制の促進も不可欠と考えている。 【健康福祉】 聴覚障害者に対する災害発生時の情報提供については、現在実施していないが、今後関係機関も含めて研究してまいりたい。
2	合併に伴い、それぞれの地域に支所が設置されると思うが、支所の機構や支所長の権限について、十分検討してほしい。例えば谷山支所の場合は、谷山のまちづくりについて支所長に相談に行っても、支所長が管内の全ての事務を管轄しているわけではない。ほかに谷山都市計画事務所や谷山建設事務所があり、それぞれの所長を通じて本庁に話を上げないといけない。地域のことは地域で決めるということを基本に、支所のあり方を検討してほしい。	総務	事務組織及び機構の取扱いについては合併協議会において、「合併時の支所の組織については、住民サービスに急激な変化を来すことがないよう配慮するものとする」旨協議済みである。支所の事務組織及び機構については、この方針に基づき検討を行うこととしている。
3	合併後の職員配置にあたっては、旧1市5町の職員がそれぞれもとの役場に勤務するのではなく、任地を変えて交流が図られるように配慮してほしい。合併後の市の円滑な一体化を図るためには、臨時職員も含めて、職員の転任や採用・研修を、旧1市5町ごとに区別するのではなく、公平な観点から行うべきである。	総務	一般職の取扱いについては合併協議会において、「職員の任免、給与その他の身分の取扱いに関しては、職員のすべてに通じて公正に取り扱うものとする」旨、協議済みである。 任地を変えての交流については、今後、検討したい。
4	5町の中には、老人ホームを町営で運営しているところもあるが、社会福祉協議会に任せるとか、民営に移管するとか、公共施設の管理運営のあり方を十分検討して調整してほしい。	総務	第四次総合計画に、民間活力の活用を盛り込んでおり、市民サービスの向上や行政責任の確保に留意しながら、民間事業者等の能力活用の推進に努めることとしている。
5	1市5町の間では税金の額にも差があるが、合併時にすぐ一本化するのではなく、暫定期間を設けて、税金が少ないところは少ないままにしておいてほしい。小さい町では税金が急に増えると大変なので、鹿児島市が大きい気持ちで見守ることが必要だと思う。	総務	個人市民税均等割及び事業所税については、合併が行われた日の属する年度及びこれに続く2か年度に限り不均一課税とすることとした。
6	国は、合併した市町村には交付税を出して、合併しないところには交付税をやらないと言っているようだが、合併するしないはそれぞれの自治体の判断に任せるべきであり、そのことを国に要求すべきだと思う。	総務	市町村合併における交付税については、合併することを条件に交付税が増減されて交付されることは、交付税制度の趣旨からしてないものと考えている。
7	合併すると、職員数が増えて、余剰人員が出てくると思う。余剰人員については、ある程度時間をかけて解消していくことになると思うが、その間に職員研修を充実して、ボランティア活動の訓練とかに積極的に取り組んでほしい。	総務	合併協議会において、職員の身分の取扱いに関しては、職員の全てに通じて公正に取り扱うものとされたが、職員研修においても職員個々の能力を開発するとともに、各種研修の充実に努めることとしている。
8	1市5町の間では、全職員数に占める係長級以上の職員の割合が、かなり異なっている。合併した場合は、その是正を適切に進めてほしい。	総務	合併時において、職員すべてに通じて公正に取り扱う中で、平準化されることになると考えている。
9	鹿児島市の職員の給与は公開されているが、5町の人件費の内容はわからないので、給与の内訳を知りたい。合併後は給与水準の格差の是正を適切に行ってほしい。	総務	合併協議会の中で、職員の任免、給与その他の身分取扱いに関しては、職員のすべてに通じて公正に取り扱うものとされたが、詳細については、今後、1市5町の長が協議することとしている。

10	職員の採用について、必要もないのに、合併前の駆け込み採用がないように、来年度は凍結すべきではないか。	総務	職員採用については、欠員や新たな行政需要に対応するとともに、職員の年齢構成の平準化などを目的として行っている。合併前の駆け込み採用は行わないが、必要な人員については採用する予定である。
11	5町の中には、立派な公共施設があるが、莫大な運営赤字を出している施設もある。合併後はああいう施設を引き継ぐことになり、運営赤字を市民が負担することになるので、新規施設の設置は、ある時点で凍結すべきである。	企画	市町村建設計画原案策定方針において、公共施設等の整備については、既存施設の有効活用に配慮するとともに、新設の場合は複合的な施設として整備することを基本としている。また、合併後のまちづくりに関する事業については、必要性、緊急性、優先性、有効性、地域性を十分に検討して選定することとしている。
12	合併に伴い、議会の議員の任期や報酬がどうなるのか、示してほしい。	議会	第4回協議会で議会の議員の定数及び任期の取扱い案を1市5町の議会において作成することが確認され、現在1市5町の議会において協議しているところであり、取扱い案を作成後、協議会に提案予定である。
13	今回の市民100人会議の出席者について、女性の参加が少ないので、今後、こういう会議を開く場合は、半数を女性に限定して募集するか、女性の参加に配慮してほしい。	企画	この「市民100人会議」は、新聞、テレビ、市民のひろば等で女性の方にもできるだけ多く参加していただけるよう、託児も準備して募集したところであるが、申込者101名のうち女性は23名であった。今後とも、できるだけ多くの女性の参加を促進するための広報啓発や参加しやすい条件の整備を進めていきたいと考えている。
14	合併すると、旧5町の地域にそれぞれ地域審議会を設置して、地域の意見を市政に反映させる仕組みが必要になると思う。	企画	地域審議会は、合併に伴う行政区域の拡大により、住民の意見が合併市町村の施策に反映されにくくなるという懸念や意見に対応するため、合併関係市町村の施策全般に関し、きめ細かに住民の意見を反映できるよう設けられた制度である。この地域審議会の取扱いは、合併協議会の協定項目の1つであり、合併協議会のなかで協議されることになる。
15	合併すると、それぞれの地域に支所が設置されると思うが、現在の谷山支所のような位置づけでは、住民に不満が出てくると思う。総合的な機能を持った出先機関として、谷山支所以上の機能を持った支所になるよう配慮してほしい。	総務	事務組織及び機構の取扱いについては合併協議会において、「合併時の支所の組織については、住民サービスに急激な変化を来すことがないよう配慮するものとする」旨協議済みである。支所の事務組織及び機構については、この方針に基づき検討を行うこととしている。
16	合併によって市域が2倍近くに広がると、域内の分権が重要になると思う。旧5町の地域だけでなく、現在の市内の上町とか伊敷とかのブロックについても、その地域の住民の意見をきめ細かく聞いて、市政に反映させていくシステムづくりが必要である。	市民	これまで、市民から市政に関する意見等を寄せてもらう「市長への手紙」等を実施するとともに、第四次総合計画に広聴機能の充実のため双方向型の広聴・広報事業として「市政出前トーク」を掲げ、14年度から取り組んでいる。
17	合併に伴い、5町の財産は合併後の市に引き継がれることになると思うが、入会権や財産区などがあれば、取扱いが難しいと思う。そういうものの取扱いも合併協議会で決めることができるのか。	総務	財産の取扱いについては、「合併時にすべて鹿児島市に引き継ぐものとする。」旨、協議済みである。
18	合併協議会の委員には、ボランティア団体とかNPOの関係者など市民代表と呼べる人が入っていないと思う。だから、これまでの会議では問題提起が出ていないのではないかと。本当にきめ細かに市民の意見を吸い上げられるような合併協議会でないと、市民の理解は得られないと思う。	企画	住民の立場から市町村建設計画や協定項目の協議に意見をいただくために、住民の代表の方々にも委員としてご参加いただいている。また、4月には市民100人会議を開催するとともに、7月28日から8月11日にかけて市内30会場で市町村合併に関する市民意見交換会を開催し、市町村建設計画の素案等に対する住民の皆さんの意見を直接うかがい、そこで出された意見は市町村建設計画案の策定や合併協議に反映させていきたいと考えている。なお、市民意見交換会は11月ごろにも開催することとしている。 合併は、市町村の根幹に関わることであることから、住民のコンセンサスを得ながら進めていくことが大事なことであり、そのためにも、今後も住民の皆さんへの情報提供に努めていきたい。

19	今回の市民 100 人会議に参加する前に 5 町をまわってみたが、例えば吉田町の輝楽里よしだ館とか郡山町の八重山公園やスパランド裸・楽・良など、地元の人や町外からのレジャー客などで賑わっており、素晴らしいと思った。合併後も、地域の拠点となるこのような施設を大事にすべきであり、ほかにも必要な施設整備に積極的に取り組んでほしい。	企画	市町村建設計画原案策定方針において、公共施設等の整備については、既存施設の有効活用に配慮するとともに、新設の場合は複合的な施設として整備することを基本としている。また、合併後のまちづくりに関する事業については、必要性、緊急性、優先性、有効性、地域性を十分に検討して選定することとしている。
20	合併後は、1 市 5 町の住民それぞれに、合併してよかったと思えるようにすべきであり、どこか 1 町だけでよくなるのではなく、公平・平等に整備を進めてほしい。	企画	合併後のそれぞれの地域のまちづくりの方針については、合併協議会において市町村建設計画を策定する中で、具体的な検討がなされることになるが、基本的には、それぞれの地域特性を活かし、バランスのとれた振興方策を検討していく必要があると考えている。
21	合併して市域が広がると、周辺部では過疎化の心配があるので、公民館活動を活発に進めて、地域のリーダー育成に取り組んでほしい。	市民	町内会・自治会活動の後継者育成の講座を開催し、リーダー育成に努める。
22	市町村建設計画の期間は 10 年間とされているが、前期・中期・後期というような区分を設けるのかどうか、検討課題の 1 つであると思う。	企画	市町村建設計画においては、財政計画を定めることになっており、まちづくり計画の事業を推進するに当たって必要となる財源の見通しと、その年次別の重点的・効率的な配分などを明らかにするものとしており、期間を区切った実施計画的なものは考えていない。
23	合併協議の中では、1 市 5 町がお互いに、この町は財政状況が悪いとか、悪口の言い合いになってはいけないと思う。そういうことでは、協議がうまく進まない。	企画	合併協議会は、合併に関するあらゆる事項を協議する場であり、鹿児島地区においては 1 市 5 町がそれぞれ意見を出し合い、お互いにその意見を尊重しあいながら、真摯な協議を行っている。今後も、1 市 5 町の住民の方々に「合併してよかった」と言ってもらえるよう、協議を進めてまいりたい。
24	今回の市民 100 人会議で出された意見については、言いつ放し、聞き放しではいけないと思うので、何らかの形で公表してほしい。	企画	参加者から出された意見については、関係課へお繋ぎし、どう処理するのかを回答していただき、その結果については、参加者にお知らせするとともに、ホームページに掲載することとしている。
25	福祉関係の行事の中で、市長あいさつの際に代理の職員があいさつすることが多いが、7 回も 8 回も代理のあいさつが続くことがあるので、時々市長本人にあいさつしていただければ、市政を身近に感じられると思う。	健康福祉	庁内外の公務が式典や会議等とふく雑することが多く、全ての行事に出席できない状況である。今後とも行事等への出席については、できるだけ配慮してまいりたい。

〔生活環境〕グループにおける意見等の検討状況

番号	意見の内容	所管専門部会	検討状況
1	合併問題は、市民にとっても難しい課題である。情報発信がもっと必要ではないか。またその際は、行政としても難しい言葉を使わずに説明してほしい。	企画	合併に関する市民への情報発信については、市民のひろばやホームページ等による広報や市民説明会の開催など情報提供を行ってきたところであるが、今後さらに市民の方々が分かりやすい形で情報発信を行ってまいりたい。
2	地域福祉計画の策定が進められているが、合併を念頭においた広域的な観点からの見直し、検討が必要になるのではないかな。	健康福祉	地域福祉計画は、地域において住民自身が生活上の課題を明らかにし、その解決に向けた取り組みを行う手法などを定めるものである。同計画については、本市の計画を基本としながら、5町の地域性も考慮し、必要に応じて見直しを検討していく。
3	まちづくり計画や財政計画についても、広域的な観点からの検討が必要である。	企画	市町村建設計画原案策定方針において、対象事業の選定基準等の一つとして「第四次鹿児島広域市町村圏計画」に位置付けられた事業等、地域の一体的発展につながる事業であることを掲げている。
4	今、農業では農薬の使用が問題になっている。合併するとなると農業のウエイトが高くなるので、有機農業や環境問題に観点をおいて農村のことを考えていく必要がある。	経済	消費者の健康志向や安全志向を踏まえ、環境負荷の軽減に配慮した環境保全型農業の推進を図っており、合併後もさらに推進を図ってまいりたい。
5	自分自身の問題として介護サービスの必要を迫られたが、不自由なときに適切なサービスが受けられないという体験をした。合併により、市域が広がって福祉サービスが薄くならないようにしてほしい。	健康福祉	介護保険事業計画については、17年度に統合することとしているので、その中でサービスの質・量についても検討したい。
6	西郷団地に住んでいるが、団地内の道路が通過道路になっており、ごみのポイ捨てが多く見られて困っている。	環境	ごみのポイ捨ては道路交通法や廃棄物処理法などで禁止されており、本市の廃棄物の処理及び清掃に関する条例においても空き缶などの散乱防止について規定している。 近年、住民の環境に対する意識の高まりなどから、ごみのポイ捨てに対する心理的な抑止効果などを期待し、罰則等を設けた条例を制定している自治体が増えてきているようである。 本市においても、今後、市民のみなさんのコンセンサスを得ながら、具体的に検討していきたいと考えており、現在他都市の先進事例等を調査し、分析を行っている。
7	1市5町の施設も合併により、統合が進められることになると思うが、住民の意見をよく聞いて調整してほしい。	企画	公共施設の統合整備の方針については、市町村建設計画素案の中で、住民生活に急激な変化を来たすことのないよう配慮し、地域の特殊性やバランス、財政事情、既存施設の有効活用等を考慮しながら、統合整備を検討していくこととしている。
8	合併したら税制度がどうなるか気になるところである。税が上がるようだと合併に反対というのは人情である。今は状況の説明だけなので、今後、詳しい説明をしてほしい。	総務	今後、機会をとらえて広報をしていきたい。
9	本当に元気なまちは、元気な人が弱者を助けることにより生まれてくるのではないかな。	健康福祉	弱者を救済し、その自立を促すのが福祉の基本理念と考えるので、今後とも福祉施策の充実を図ってまいりたい。
10	桜島が分かれていることが不思議である。一体化することにより産業の振興にもつながると思う。	経済	一体化することにより、地域農産物の共同出荷等を推進し、地域の振興に努めてまいりたい。また、桜島を最大限に生かした観光地としての魅力づくりを進めてまいりたい。

11	天文館は夜の賑わいはあるが、ごみが散乱するなど、昼間に散歩しようと思わせるまちではない。天文館を散歩できるまちにしてほしい。	環境	平成14年4月からの事業所ごみ対策により、事業所ごみは市の計画収集の対象外となっている。現在は各事業所が個別に許可業者と契約し、各々の事業所でごみ処理を行うようになっており、天文館地区でも従前と比較するとごみの散乱等はなくなってきている。今後とも、天文館連絡協議会、社交業組合、各とおり会などと連携、協力しながら、事業所ごみの適正処理を推進しようと考えている。
12	ごみ収集は、5町の方がうまくいっているのではないかと。市も同じ方法をとってほしい。	環境	5町のごみ収集については、分別品目が少ないなど、本市とは状況が異なっているところがある。合併にあたっては、分別品目やごみ処理の方法など、基本的に本市のごみ処理の制度に統合する方向で調整を図っている。
13	高齢者を定義する年齢を見直す必要がある。時代に合わなくなっている。	健康福祉	国や県の動向を見定めながら対応してまいりたい。
14	高齢者のためにも合併に当たっては、巡回バスなど交通体系の整備を急いでほしい。	企画	現在、各町で運行しているコミュニティバスは現行どおり運行し、新たな地域への運行については、合併後の新市の交通状況やコミュニティバスの利用状況等を勘案しながら検討したいと考えている。
15	高齢者に対する施策は、内容の違いがあるのではないかと。サービス内容の向上に努めてほしい。	健康福祉	合併を機に現在の本市のサービスを低下させないことを基本に考えている。
16	合併前提という印象が強い。5町にとってはメリットが多いが、市にとってはデメリットが多いのではないかと感じている。もっと前の段階で100人会議を開いてほしかった。	企画	平成15年1月24日に1市5町で構成する鹿児島地区合併協議会を設置したが、この合併協議会は合併を行うことを義務づけるものではなく、お互いに合併に向けて、合併に関するあらゆる事項の協議を行う場である。メリット・デメリットについては、現在協議を進めている事務事業の調整の中で具体的になるものであり、まとめ次第機会を捉えてお示したいと考えている。また、「市民100人会議」の開催時期については、合併協議会の協議を進めながら、なるべく早い時期ということで4月23日、24日に設定したものであり、ご理解いただきたい。
17	市の施策が観光を目玉にしていない。西鹿児島駅前の整備が進められているが、今ごろという感がある。桜島の活用についても積極的に図るべきである。	経済	観光振興は、市政の大きな柱の一つであり、今後はさらに「新しい観光・コンベンションの創造」に取り組むこととしている。桜島については、これを最大限に生かした観光地としての魅力づくりを進めていくこととしている。
18	市民が桜島のことを知らない。もっと活用すべきである。	経済	桜島については、これを最大限に生かした観光地としての魅力づくりを進めていくこととしている。
19	三島村に子供のための体験施設ができると聞くと、財政的な面からも近場にあるものをもっと活用する必要がある。	教育	子どもたちが体験活動をする場や機会を拡充するために、少年自然の家や宮川野外活動センター等の主催事業をさらに充実するとともに、学校やグループ、家族等での利用促進を図る。
20	川や海岸など、もっと水に親しめるようにしてほしい。	建設	各河川・海岸管理者において親水性に配慮した整備を促進する。平成5年改訂の鹿児島港港湾計画において、親水緑地等の整備が計画されています。本港区については、平成7年3月策定の「鹿児島港本港区ウォーターフロント開発基本計画」に基づき、親水護岸、ボードウォーク等の整備が行われたところである。

21	ごみ処理について有料でないのは市だけである。このことについては、市民レベルでの検討が必要と感じている。	環境	ごみ処理手数料（有料指定袋）は本市が無料、5町は有料であるが、5町でもその金額に差異がある。 1市5町の合併とごみ処理の有料化は別の問題であることから、ごみ処理については基本的に本市の制度を適用し、住民負担を同じくするという観点から無料とした。
22	面積が2倍になって、人口は5万人しか増えないという説明があったが、そのことによって負担が増えないようにしてほしい。	企画	各種の行政サービスや住民負担の調整にあたっての、基本的な考え方については、合併協議会において、「合併協定項目調整方針」として確認がなされたところである。 その調整方針では、合併後の市の将来像を展望するとともに、合併後における速やかな一体性の確保を図ること、住民生活に十分配慮するとともに、効率的な行財政の運営に留意すること、を基本原則とし、さらに、補助率や負担割合が異なるものは、鹿児島市の制度を基本に検討すること、各町の単独事業等については、その有効性並びに財政に及ぼす影響を勘案して調整すること、を留意事項として、行政制度や事務事業等の一本化の調整を行うための具体的な協議が進められているところである。
23	町内会への加入状況など、5町の方がよい面がある。よい面は町に見習うべきである。	市民	良い面については、参考にしてみたい。
24	特別養護老人ホームなど、施設の待機者が多い中で、5町との合併となるとまだ待たされるのかという不安がある。敬老パス問題については、5町の人には良くしてもらいたいと考えているのだろうが、税負担との関係でもしっかりと検討してほしい。	健康福祉	施設入所については、必要性の高い高齢者が優先的に入所できるように入所指針を策定し、本年4月から適用されているところであり、合併によって、入所までの期日が長くなることは、ないものと考えている。また、できるだけ早急に入所できるよう、施設整備についても、計画的に進めているところであるが、合併後については、新たな高齢者保健福祉・介護保険事業計画を策定するなかで、検討してみたい。 敬老パスについては、合併協議会において、協議調整してみたい。
25	100年プロジェクト会議にも参加しすばらしいものが出来上がったと思っているが、中身はかなり長期的なことになってはいるが、合併に当たってこのプロジェクトをどう整理していくのか。高齢者問題はよく考えていただきたい。	企画	まちづくり計画の事業検討にあたっては、100年プロジェクト会議の内容も参考にしながら検討をおこなった。
26	敬老パスの見直しがなぜ今なのかと思う。高齢者は、医療費・年金などで今、困っている。現行の制度で続け、合併後にもう一度論議すべきである。	健康福祉	見直しについては、合併協議会において、協議調整してみたい
27	バス路線、交通体系が市役所中心になっている。新幹線が開通するのを機会に西鹿児島駅を中心にした交通体系を考える必要がある。	企画	現在、新幹線開業に向けて、西鹿児島駅前の総合交通ターミナルの整備を進めており、その中で、行政や交通事業者などの関係者において、路線編成などについての検討協議を行っている。
28	海岸線が伸びるということであるので、海を生かした観光施策を考えてほしい。「ヨット大学」はどうか。	経済	海を生かした観光施策については、これを生かした鹿児島らしい魅力づくりに努めていくこととしている。
29	海という観光資源を生かして、マリンスポーツ、タラソテラピーを検討してほしい。	経済・健康福祉	【経済】 海を生かした観光施策については、これを生かした鹿児島らしい魅力づくりに努めていくこととしている。 【健康福祉】 タラソテラピーについて、現在のところ対応していないところであるが、今後、研究してみたい。

30	田や畑が増えることになるので、これらを教育や環境にも生かしてほしい。	環境・教育	【環境】 今後とも、自然環境の保全に努めていく。 【教育】 第四次総合計画に記載している。
31	アンケート調査の結果を見ても、5町はメリット意識が強く、市はデメリット意識が強いようである。敬老パスの範囲を広げると負担も増えることになるので、距離によって無料とか有料を検討したらどうか。	健康福祉	見直しについては、合併協議会において、協議調整してまいりたい。
32	谷山市との合併はよかったと思う。ごみを燃やさない、ある物を使うなどこれからも心がけたい。	環境	今後とも、循環型社会の構築のため、ごみの減量化・資源化の推進にとりこんでいきたいと考えている。
33	合併にはメリットもデメリットもある。あと2年くらいの検討期間がほしい。	企画	合併の期日については、第3回合併協議会において、合併特例法の期限、合併に関する手続きの期間や合併後の市の予算編成に要する期間等を総合的に勘案し、「平成16年11月1日を目標とする。」と確認がなされている。また、合併問題については、平成13年5月に研究会を設置し、また平成14年9月には準備協議会を設置するなど、合併協議会発足以前から、各面から協議を行ってきたところであるので、ご理解いただきたい。なお、合併に伴うメリットやデメリットなど合併に関する情報提供については、できる限り行ってまいりたい。
34	短距離でも敬老パスを使う人がいる。自分の健康は自分でつくるという考えを高齢者の方々も持っていただきたい。	健康福祉	今後の参考にさせていただきたい。
35	平川あたりの海岸線は草が伸び放題である。海岸沿いのレストランが閉まってしまうなど寂しい。海岸線をきれいに活用してほしい。	建設	浜平川港区周辺については、総合計画において、観光レクリエーションゾーンの形成を促進することとしている。また、平成5年改訂の鹿児島港港湾計画においては、浜平川港区について、休息・修景緑地の整備が計画されている。
36	合併に当たっては、一極集中にならないよう注意すべきである。	企画	合併後の新市のまちづくりについては、新市のまちづくりのマスタープランとなる「市町村建設計画」を策定する中で、具体的な検討が合併協議会において行われることになる。基本的には、各町の総合振興計画を継承するとともに、鹿児島市の総合計画を踏まえる中で、それぞれの地域特性を活かし、バランスのとれた振興方策を検討していく必要がある。
37	桜島のエネルギーをこのままにしておくのはもったいない。大学と市が共同研究して活用すべきではないか。	企画	鹿児島大学との共同研究については、平成14年度に地域振興協議会を設立し、個別のテーマについて研究を進めている。なお、桜島のエネルギーの活用については、壮大なテーマであり今後の検討要素の一つと思われる。
38	子供や孫の時代になって合併してよかったと思っていただくのが基本である。その点では今後予定されている市民説明会は30箇所では足りない。小学校単位の開催を検討してほしい。できれば住民投票も。	企画	本市においては、鹿児島地区合併協議会に市民の参加も得て、合併に関するあらゆる事項について協議を行うとともに、市民100人会議をはじめ、いろいろな機会を通して市民の皆様方のご意見を伺い、また、市議会における論議を踏まえながら、合併に関する協議を進めている。今後も、市町村建設計画案や協定項目の調整方針案がまとまる各段階で市民意見交換会を開催するほか、協議を進めていく過程で得られた情報は、広報紙等を通じて市民に積極的に提供し、それに対する意見を伺いながら合併に関する合意形成を図ってまいりたいと考えており、住民投票を実施することは考えていないところである。なお、市民意見交換会の開催方法については、今後の参加者の状況等をみながら、適宜適切に対応してまいりたい。

39	市電の延長について検討してほしい。	企画	市電の延伸については、現在、その実現可能性について、検討を行っている。
40	合併の基本である負担は低いほうに、サービスは高いほうにということで協議してほしい。合併によって負担増がないように。	企画	<p>各種の行政サービスや住民負担の調整にあたっての、基本的な考え方については、合併協議会において、「合併協定項目調整方針」として確認がなされたところである。</p> <p>その調整方針では、合併後の市の将来像を展望するとともに、合併後における速やかな一体性の確保を図ること、住民生活に十分配慮するとともに、効率的な行財政の運営に留意すること、を基本原則とし、さらに、補助率や負担割合が異なるものは、鹿児島市の制度を基本に検討すること、各町の単独事業等については、その有効性並びに財政に及ぼす影響を勘案して調整すること、を留意事項として、行政制度や事務事業等の一本化の調整を行うための具体的な協議が進められているところである。</p>

〔産業経済〕グループにおける意見等の検討状況

番号	意見の内容	所管専門部会	検討状況
1	世界遺産であるフランスのモンサンミッシェルは自然だけで何も無いのに人が集まる。桜島周辺もそのような場所にしてほしい。	経済	桜島については、これを最大限に生かした観光地としての魅力づくりを進めていくこととしている。
2	市民の身近にある城山を植物園にして、綺麗な花や子どもの遊び場もあり、頂上からはケーブルカーで降りてこられるようなものにしてほしい。	企画	城山については、本市市街地における貴重な自然環境であり、その保全に努めることとしたい。
3	どこの観光地にもスカイタワーがあるので、市が購入予定の南日本新聞社跡地にスカイタワーを建設し、その下には姉妹都市の観光局を入れたらどうか。	総務・企画	【総務】 南日本新聞社跡地については、当該跡地にある旧社屋を、庁舎機能の充実や市町村合併に伴う行政需要への対応、さらには、SOHOなどニュービジネスの活動拠点整備など喫緊の課題を解決するために、有効活用することとしている。（管財課） 現時点で各市から観光局設置の意向は示されていない。市民文化ホール及び市立図書館内に各市の紹介コーナーを設けているが、今後、更なる交流の推進のため、各方面から研究してみたいと考えている。（国際交流課） 【企画】 南日本新聞社跡地については、当該跡地にある旧社屋を活用することとしており、スカイタワーの建設は、考えていない。
4	国際観光都市と言いながら24時間開いている両替所がない。ただ来てくれば観光客はこないのではないか。	経済	24時間開いている両替場所については、一部ホテルがサービスとして実施しているところである。
5	吉田町は教育のまちであり、空港、インターチェンジにも近く、また国分の頭脳センターにも近いことからハイテクの町にしては。また、鹿児島市に近いのでベッドタウンとしてもいいのではないか。桜島町は、錦江湾や桜島の自然遺産を活用としたアクアリウム構想を推進し、いわゆる海を主体とした観光を全面に打ち出していいのではないか。桜島架橋を実現し、桜島フェリーは錦江湾や離島クルーズを行えばいいのではないか。また、桜島を一周する桜並木を作っては。喜入町は市内から離れており、過疎化もあるので、シルバータウンとしては。松元町は本市のベッドタウンなのでそれを生かしては。また、お茶のまちでもあるので、桜島と違ったグリーンツーリズムを行い、滞在型観光に結びつけられればと思う。郡山町は、スパランドららもあるので温泉を中心とした温泉パークランドというもの全面に出しては。いずれにしても、鹿児島市一極集中ではなく、まちの特性を生かすとともに、各町を結ぶ道路の整備が必要である。	企画	【企画】 地域別の振興方針については、市町村建設計画素案の中に盛り込んでいるが、新市は、多様な特性を備えた地域によって構成されるため、第四次鹿児島市総合計画における地域別計画をもとに、新市の地形等の自然条件、交通、都市機能の集積、土地利用状況、日常生活上の交流の範囲等の諸条件を踏まえるものとしている。 また、ご意見にある各地域を結ぶ道路整備については、まちづくり計画における重要な事業と考えており、生活道路や交通体系を検討する中で対応してまいりたい。
6	基本ベースとしては、鹿児島市の第4次総合計画を踏まえ、新世紀100年プロジェクトの提言をミックスした形でまちづくりを進めていくべきである。	企画	まちづくり計画の事業検討にあたっては、100年プロジェクト会議の内容も参考にしながら検討を行った。
7	錦江湾という天然の良港を持ちながら港があまり有効活用されていない。港をもっと活用し、市民が親水性を我がものとするような取組みをしてほしい。	建設	平成5年改訂の鹿児島港港湾計画において、親水緑地等の整備が計画されている。本港区については、平成7年3月策定の「鹿児島港本港区ウォーターフロント開発基本計画」に基づき、親水護岸、ボードウォーク等の整備が行われたところである。

8	雇用情勢が非常に厳しいので、合併に伴い産業を持ってきて雇用の創出をしてほしい。また、鹿児島駅の名前を残したいのは理解するが、時代は変化しているので、海につながっている意味で、鹿児島マリン駅に名前を変えるなど、若い人たちの感覚でイメージを刷新してほしい。	経済	地域産業の振興、企業の誘致の促進を通じて、就業機会の拡大に努めており、合併後もさらに推進を図ってまいりたい。
9	このような会議に若い人たちの出席が少ない。	企画	できるだけ、若い人が参加するよう広報方法、内容など工夫して参加を呼びかけたい。
10	県外の人から鹿児島の良いところを尋ねられても答えられない。まず、一人でも多くの人々が鹿児島を好きになることが大事である。	企画	第四次総合計画はもとより市町村建設計画素案においても、まちづくりの主役は市民としており、まちづくりの推進にあたっては市民と行政が協働して取り組むこととしている。
11	鹿児島市には敬老パスの制度がある。5町の中にはコミュニティバスがあるところもあるが何も無いところもある。合併後は同じ鹿児島市民となるので、できる限り同じサービスが受けられるようにすべきである。合併すれば市域も広がり、市営バスは走れば走るほど赤字になるといって、民間バスに負けないよう頑張してほしい。	健康福祉・交通	【健康福祉】 見直しについては、合併協議会において、協議調整してまいりたい。 【交通】 市域における主要な公共交通機関として、また、公営交通機関としてその役割と機能の強化に努める。
12	西鹿児島駅東口は工事のため樹木が減っているが、南国の熱い日差しを避けるためにも工事が終わったら樹木を植えてほしい。	建設	西鹿児島駅東口駅前広場の植栽については、大きなシンボルツリーと、季節を草花で演出するような計画としており、平成16年2月を目標に整備を進めている。
13	市電の延伸については、県庁まで延伸する案があるらしいが、県庁までではなく鴨池港まで延伸してほしい。	企画	市電の延伸については、快適で利便性の高い交通体系の整備や交通渋滞の緩和等に資するため、延伸の可能性について検討を行っている。現在、14年度の調査において延伸の優先度が最も高いとの評価がされた谷山地区について、実現可能性の検討を行っている。
14	1市5町それぞれに合併を記念したもの（記念碑ではなく、メインストリートに桜を植えるなど、市民が憩えるようなもの）を作してほしい。	企画	ご意見として承りたい。
15	それぞれのまちにはそれぞれの魅力があるので、1市5町の観光地の洗い直しを行い、活用してほしい。	経済	各町の魅力ある観光資源については、積極的に活用してまいりたい。
16	5町との交通アクセスの整備を行い、交通の利便性を高めてほしい。また、桜島に橋をかけてほしい。	建設・企画	【企画】 5町との交通アクセスの整備については、まちづくり計画の重要な事業と考えており、生活道路や交通体系を検討する中で対応してまいりたい。 なお、桜島架橋については、フェリー航路があることや大隈半島全体に影響することであることから、全県的に、また長期的に研究していく課題であり、市町村建設計画への反映は考えていない。 【建設】 ・新市の交通ネットワークとして、鹿児島広域市町村圏計画等に基づき今後とも国道等の整備を促進していく。 ・また、市町村建設計画の方針でもある、「1市5町の速やかな一体化」を促進するため、本市と5町のアクセス強化等に資する道路についても検討していきたい。
17	合併に際し事務事業の見直しを行い、民営化や外部委託ができるものは行ってほしい。また、市内の企業が受注できるようにすれば雇用機会が増える。	総務	第四次総合計画に、民間活力の活用を盛り込んでおり、市民サービスの向上や行政責任の確保に留意しながら、民間事業者等の能力活用の推進に努めることとしている。

18	合併を行う理由の一つに財政問題を言われているにもかかわらず、合併してどのように財政を変えていくかということがわからない。5町も鹿児島市のようにバランスシートを作成し、財政状況が分かった上で合併すべきではないか。	総務	五町の財政規模が本市と比べて小さいため、財政指標の面では大きな変動をもたらすということはないのではないかと考えている。
19	5町は準農村なので、都市と農村の共生が図られるようなまちづくりを行ってほしい。例えば、少子高齢化で後継者がいなくなり耕作されていない農地を市民農園として活用したり、子どもが遊びながら農業に触れることができる農園などに有効活用してほしい。	経済	遊休農地の活用策については、市民農園としての利用など、地域の実態を踏まえ都市と農村の共生が図られるよう、努めてまいりたい。
20	合併により甲突川流域はすべて鹿児島市域となるので、流域の一貫管理を行い、災害に強いまちづくりを行ってほしい。	市民・建設	【市民】 市民が自主的に災害に対する備えを講じられるよう防災意識の高揚に努め、市民と行政が一体となった災害対策を推進する。 【建設】 8・6豪雨災害以後、本市が取り組んでいる総合治水と併せ、甲突川の河川管理者である県と連携をとりながら、災害に強いまちづくりを進めていく。
21	合併という機会を捉え、新たな観光資源の創出、行政と民間と地場産業の連携などの問題に取り組むことが大事である。	経済	今後とも、本市の特性を生かした新たな観光資源の創造や観光施設の整備に努めるとともに、地場産業については、観光産業等との連携を図りながら、製品の宣伝PRに努め、新たな販路や市場の開拓を促進しており、合併後もさらに推進を図ってまいりたい。
22	郡山町や松元町の農村を活用し、外国人などと農家が交流するような明るい農村づくりに取り組んでほしい。	経済	都市部住民と農村地域との交流を進めるなど、活気ある農村づくりに取り組んでまいりたい。
23	意識を変えて、遊びに目を向け、競艇場や競艇の学校を作ったりして地域開発を行ってほしい。	企画	競艇場等の建設については、市民の賛否が分かれるところであり、市町村建設計画への反映は考えていない。
24	小さな行政府にしてほしい。アウトソーシングできるものはすべてアウトソーシングしてほしい。	総務	第四次総合計画に、効率的な行政運営、民間活力の活用を盛り込んでおり、簡素で効率的かつ弾力性に富んだ行政執行体制の確立を図り、また、民間委託がふさわしいものについては、市民サービスの向上や行政責任の確保に留意しながら、委託の推進に努めることとしている。

25	21世紀は食糧危機あるいは水危機が起こる可能性がある。そういう意味から、アクアとアグリの再構築を安心、安全、本物という観点からしてほしい。先進国で日本ほど水道基準が甘いところはないので、安心できる水を供給してほしい。	経済・水道	<p>【経済】 環境保全型農業を進め、さらに良質で安全な農畜産物の安定供給に努めてまいりたい。</p> <p>【水道】 安全でおいしい水を安定的に供給するため、第四次総合計画の施策の体系に「安全でおいしい水の供給」の項を設け、 ア 水源地域や取水河川流域における水源のかん養に努め、水源の保全を図る。 イ 水源地域や取水河川流域の水質保全を図るため、市民への啓発や事業所に対する指導に努めるなど、地下水の水質保全や河川の浄化を促進する。 ウ 浄水処理技術の向上にさらに努めるとともに、水質監視体制の強化を図る。 エ 給水装置や受水槽等の適正な管理を促進するため、設置者に対する指導、啓発に努めるとともに、直結給水の拡大を図る。 の4つの施策を掲げている。 これらの施策を踏まえ、市町村建設計画素案の基本的方向を「安全でおいしい水を安定的に供給するため、水道としての機能をさらに充実するとともに、多様化する市民の要望を的確にとらえ、維持管理の時代に即応したきめ細かい水道行政を推進します」としている。</p>
26	大学等に行くために県外に出て行けば、学費等が外に出て行く。県外に出て行かないように教育施設を作してほしい。そうすれば、地域内でお金が回る。	企画	高等教育機関の充実促進については、引き続き関係機関へ要請してまいりたい。
27	働く職場がないと「元気都市かごしま」にはなれない。是非合併ということ雇用を結びつけて、働く職場が増えるようにしてほしい。	経済	地域産業の振興、企業の誘致の促進を通じて、就業機会の拡大に努めており、合併後もさらにこれらの促進に努めてまいりたい。
28	東桜島と桜島町が一緒になるので、桜島を生かした観光をしてほしい。また他の町は個性を生かした観光や地場産業を生かしてほしい。桜島フェリーが往復する景観は素晴らしいので、桜島架橋はできるだけやめてほしい。また、フェリーを活用したクルージングコースを是非考えてほしい。	経済・企画	<p>【経済】 桜島については、今後とも、これを最大限に生かした観光地としての魅力づくりを進めてまいりたい。 また、他の町についても、地域の伝統、個性、資源を生かした観光や、特性を生かした地域農業の振興が図られるよう努めてまいりたい。</p> <p>【企画】 地域別の振興方針については、市町村建設計画素案の中に盛り込んでいるが、新市は、多様な特性を備えた地域によって構成されるため、第四次鹿児島市総合計画における地域別計画をもとに、新市の地形等の自然条件、交通、都市機能の集積、土地利用状況、日常生活上の交流の範囲等の諸条件を踏まえるものとしている。 とりわけ、桜島地域については、観光・レクリエーション機能の充実を図ることとしている。</p>
29	鹿児島市が作る箱ものは小さい。水族館の水槽やイルカプールも今の3～5倍の広さがほしい。水族館を本港区に移転し、イルカのショーを見ながら一緒に桜島が眺められるような配置にしてほしい。	建設	かごしま水族館については、施設の拡張は困難であるが、展示内容の充実などにより、市民が海を身近に感じ、理解する施設としての利用促進を図っている。
30	公園にはトイレが設置しているが、電車通り沿いなどにはトイレがない。観光客のために是非トイレを設置してほしい。	経済	公衆トイレを電車通り沿いなどで設置することは、極めて難しいと考えている。
31	鹿児島は航空運賃やホテルが高いので、行政が観光客を呼ぼうと思うのであれば、安くするよう働きかけるべきだ。	経済	航空運賃などの低減については、経済界や観光業界などと一体となって対応してまいりたい。

32	<p>中心部に観光施設が固まりすぎているので、わざと離れたところに作り、その観光地を回るようにした方がいいのではないか。</p>	経済	<p>地区の特性に応じた、多様な魅力をもった観光ゾーンの形成を図ることとしている。</p>
33	<p>合併することによって鹿児島市の産業等が伸びていく要素がでてきたのではないかと。内陸型の工業地域もできるし、先端技術の地域も設けられる発展の可能性が出てきた。観光資源としては、海岸線、温泉、素晴らしい山。これらを見るだけでなく、触れてみることによって観光資源が生きてくるような気がする。そのためにも、循環道路の整備が大事になってくる。桜島架橋もその一つであると思う。</p>	<p>経済・建設・企画</p>	<p>【経済】          内陸型の工業団地については、長期的・総合的な視野に立って、その活用策を検討してまいりたい。          先端技術に関しては、今後の成長が見込まれるITをはじめ医療・福祉、環境関連分野の産業や産業全体への波及効果の大きい研究開発型企業などの誘致と育成に努めており、合併後もさらに推進を図ってまいりたい。          また、今後とも、地域の特性を生かした魅力ある観光地づくりに努めるとともに、それらを結ぶアクセスの充実促進に努めてまいりたい。</p> <p>【建設】          ・新市の交通ネットワークとして、鹿児島広域市町村圏計画等に基づき今後とも国県道等の整備を促進していく。          ・また、市町村建設計画の方針でもある、「1市5町の速やかな一体化」を促進するため、本市と5町のアクセス強化等に資する道路についても検討していきたい。</p> <p>【企画】          地域別の振興方針については、市町村建設計画素案の中に盛り込んでいるが、新市は、多様な特性を備えた地域によって構成されるため、第四次鹿児島市総合計画における地域別計画をもとに、新市の地形等の自然条件、交通、都市機能の集積、土地利用状況、日常生活上の交流の範囲等の諸条件を踏まえるものとしている。          また、道路整備については、まちづくり計画の重要な事業と考えており、生活道路や交通体系を検討する中で対応してまいりたい。          なお、桜島架橋については、フェリー航路があることや大隈半島全体に影響することであることから、全県的に、また長期的に研究していく課題であり、市町村建設計画への反映は考えていない。</p>

〔都市整備〕グループにおける意見等の検討状況

番号	意見の内容	所管専門部会	検討状況
1	谷山駅周辺のリニューアルや活性化策など新鹿兒島市の重要プロジェクトに取り上げ推進してほしい。	建設・経済	<p>【建設】 谷山駅周辺地区については、既に第四次総合計画で現市の副都心核として位置づけがなされており、この中で谷山駅周辺地区リニューアル整備事業により基盤の整備を行い魅力ある都市空間の形成と都市機能の集積を図ることとしている。</p> <p>【経済】 谷山地域については、中心市街地の活性化を図っており、合併後もさらに推進を図ってまいりたい。</p>
2	市電の延伸（ＪＲ谷山駅まで、県庁までなど）や運行形態（特急化、谷山から郡元で折り返す便の創設など）の見直しを考えてほしい。	企画・交通	<p>【企画】 市電延伸については、現在、谷山地区において延伸の実現可能性の検討を行っている。</p> <p>【交通】 ・市電の特急化については、前の車両を追い越すためのホームの整備、路線の敷設及び用地確保等のために、相当の経費を必要とすること、通過する停留所で待つ乗客の安全性・利便性を損なうこと、併用軌道においては、交通信号等の影響を受けるため時間短縮効果が小さいと考えられることなどから、現状では困難である。 ・市電の運行形態（谷山から郡元で折り返す便の創設など）の見直しについては、乗客の利用動向や実態などの的確な把握に努め、今後、各面から検討する中で研究してまいりたい。</p>
3	朝夕の渋滞緩和策として、交通結節点の改良、放射状道路の整備、新たな幹線道路（上町地区と吉野・吉田方面を結ぶ道路、武地区と田上・紫原・星ヶ峯・皇徳寺方面を結ぶ道路、郡元地区と谷山・和田・平川・喜入方面を結ぶ道路）を計画・実施してほしい。	建設	骨格的な幹線道路として、東西・南北幹線道路の建設を促進することで、市域への流入部等の交通渋滞を解消するとともに、国道226号平川道路、坂之上交差点等の交通結節点の改良や武岡線、宇宿広木線、高麗通線等の幹線道路の整備に努めている。
4	箱モノの建設・インフラの整備にあたっては、費用対効果を十分検討した上で行うべきものであり、将来に財政負担を強いるものとなつてはならない。子供や孫の代まで負担をさせるべきではなく、我慢する部分も必要と思う。	企画・総務	<p>【企画】 市町村建設計画原案策定方針においては、合併後のまちづくりに関する事業については、必要性、緊急性、優先性、有効性、地域性などを十分に検討して選定するとともに、地方交付税、国庫補助金、地方債などの依存財源を過大に見積もらず、健全財政を堅持する観点に立つ堅実な財政計画に基づくものとするとしている。</p> <p>【総務】 第四次総合計画においても健全財政の堅持を盛り込んでおり、事務事業の計画策定にあたっては、緊急性・重要度・費用対効果等を十分検討して厳しく選択することとし、限られた財源の重点的・効率的配分に努めることとしている。</p>
5	5町との距離を考えて、施設の適正な配置に努めてほしい。	企画	公共施設の統合整備については、市町村建設計画素案の中で、住民生活に急激な変化を来たすことのないよう配慮し、地域の特殊性やバランス、財政事情、既存施設の有効活用等を考慮しながら、検討していくこととしている。

6	線引き、特に市街化区域と市街化調整区域の設定に当たっては、一極集中しすぎた鹿児島市の都市機能を1市5町で分担できるよう、また、集落の過疎化・高齢化を助長することがないよう、例えば学校から1,000m内は市街化区域にするなど、特色あるまちづくりに資するものでなければならない。	建設	合併後の都市計画の取扱いについては、都市計画基礎調査を実施し、その調査結果の解析をもとに市の素案を作成し、議会、住民の意見を聞き、国及び県と協議調整を図り、新市の都市計画を検討することになる。また、これと併せて、新市の特色を生かし、地域の実情を踏まえた独自性のある新都市マスタープランの検討・再編を行う。
7	1市5町で共通のテーマ(例えば「温泉」)を持って、元気都市にふさわしい、新鹿児島市のまちづくりに取り組むべきである。	企画	まちづくり計画の対象事業の選定に当たっては、市町村建設計画原案策定方針の中で、合併に伴う効果が最大限に発揮される新たな視点に立ったまちづくりの推進に大きく寄与する事業であることを掲げている。
8	合併は、都市改造の一大チャンス。現在の鹿児島市は中心部に機能が集中しすぎている。そこで1市5町を9つのゾーンに分けて、機能を分担する。例えば、市立病院を山間部に移転させるだけで、人・車・物の流れが大分変わってくる。	企画	地域別の振興方針については、市町村建設計画素案の中に盛り込んでいるが、新市は、多様な特性を備えた地域によって構成されるため、第四次鹿児島市総合計画における地域別計画をもとに、新市の地形等の自然条件、交通、都市機能の集積、土地利用状況、日常生活上の交流の範囲等の諸条件を踏まえ、9地域9地区に区分し振興を図ることとしている。
9	合併を機に、渋滞緩和策として、パークアンドライドを実施してもらいたい。	企画	パークアンドライドは、渋滞緩和に有効な施策の一つではありますが、その実現には、乗り換えのための大型駐車場の確保や利用者側の乗り換え抵抗など多くの課題もありますので、今後、広域的な交通問題に取り組む中で、その可能性を検討したいと考えている。
10	合併するからには、喜入から松元、郡山、吉田を通る道路を造らないといけない。この道路を造ることによって、市内に流入する車が減り、渋滞の解消につながる。	建設	・新市の交通ネットワークとして、鹿児島広域市町村圏計画等に基づき今後とも国道等の整備を促進していく。 ・また、市町村建設計画素案の方針でもある、「1市5町の速やかな一体化」を促進するため、本市と5町のアクセス強化等に資する道路についても検討していきたい。
11	喜入町、桜島町が加わることから、錦江湾を有効利用した施策(遊覧船、離島を巡るクルーズ船、競艇場など)を展開し、経済に発展につなげてほしい。	経済・企画	【経済】 今後とも、海を生かした鹿児島らしい魅力づくりに取り組んでまいりたい。 【企画】 市町村建設計画素案の地域別振興の方針の中で、桜島地域や喜入地域における海を生かしたまちづくりの方向性を示している。
12	新幹線開業で、福岡へのストロー現象を心配しているが、今回の暫定開業で熊本市までが50分で移動できることになり、大企業などの支店が鹿児島から熊本へ移ることになるかもしれない。熊本市へのストロー現象に危機感を持つべきである。	経済	本市の南九州の経済拠点としての魅力アップを図っており、合併後もさらに推進を図ってまいりたい。
13	桜島の完全統一を記念し、鹿児島市の行政組織内に桜島区を設置し、自治体内自治組織を置く。	総務・企画	【総務・企画】 事務組織及び機構の取扱いについては合併協議会において、「5町の役場は支所とする」旨協議済みである。
14	現市役所は狭いので、庁舎の移転を考えたらどうか。	総務	庁舎機能の充実や市町村合併に伴う行政需要への対応、さらには、SOHOなどニュービジネスの活動拠点整備など喫緊の課題を解決するために、南日本新聞社跡地を取得し当該旧社屋の有効活用を図ることとしたしている。

〔教育・文化〕グループにおける意見等の検討状況

番号	意見の内容	所管専門部会	検討状況
1	合併を機に、校区の人々が中学校の行事に参加できるような施策の検討が必要ではないか。	教育	第四次総合計画に「特色ある開かれた学校づくり」として盛り込んでいる。
2	合併すると小学校は20校ほど増えることになり、鹿児島市内に小規模校や複式学級が増えることになる。同一市内の子どもたちの機会均等を図る上でも、今まで以上に末端まで行き届く教育行政を考えなければならない。	教育	諸施策をさらに充実していく。
3	合併すると広域になり、今まで以上に山部の学校や海辺の学校、都市部の学校など間口が広くなり、体験学習の場が増えることになる。子どもたちの心を育てるという観点からも、交流学習を取り入れた教育行政の展開を望む。	教育	体験学習や交流学習の推進については、第四次総合計画に盛り込んでいる。
4	市域が広がると、市内のある地域のことは知らないという子どもも出てくるのではないか。子どもたちが、自分のまちを見て回る「市内巡り」などを行政で検討してはどうか。	教育	市内の施設や史跡等については、学校行事や授業の中で全ての学校が現地を訪問し、学習を行っている。
5	鹿児島市は総合計画の基本理念の中に「人権の尊重」をうたっているが、鹿児島市と5町は、人権に関する宣言を行っていない。合併を機に、これまで不足している同和問題に対する意識啓発、社会教育からの働きかけ、マイノリティに対する働きかけが必要である。	市民・教育	【市民】 鹿児島市第4次総合計画の「人権の尊重」中で、「人権意識の高揚」及び「同和対策の推進」を盛り込んでおり、合併後は5町を含めて、同和問題をはじめ様々な人権問題について啓発を行っていくこととなる。 【教育】 同和問題をはじめ様々な人権問題の解決のため、関係機関や団体と連携を図りながら、各種の事業を推進している。今後も、すべての人々の人権が尊重される社会の実現を目指して、機会をとらえながら、あらゆる人権問題の解決に取り組んでいく。
6	市域が広がると、ますます中心部の児童生徒数は減少し、空き教室も出てくるのではないか。現在、学校の先生方は大変忙しくゆとりがない状況で、子どもたちにもその影響が出ている。一クラス40人枠ということを見直してはどうか。	教育	現在、県では「小学1年生すくすくプラン」を導入したり指導方法改善のための教員を配置したりして少人数指導を進めている。40人枠の見直しを市単独で行うとすれば財政負担も大きいことから、今後の国や県の動向を見守ってまいりたい。
7	合併したら施設の相互利用による利用者増に伴い、現在の市の施設では駐車場が不足することになるのではないか。これに対する対応が必要となる。	施設を有する部会	【総務】 本庁舎の駐車場対策につきましては、平成15年度に鹿児島税務署跡地を取得することとしておりますが、隣接する南日本新聞社旧社屋の活用策と合わせて駐車場としての利用なども含め、総合的に検討しているところである。 【健康福祉】 公共交通機関の利用について広報し、協力を呼びかけてまいりたい。 【教育】 駐車スペースの確保については、それぞれに限りがある。民間駐車場等の利用や公共交通機関の利用もお願いしたい。

8	現在の鹿児島市の校区公民館の役割と5町の公民館の役割に差がある。合併して、この公民館の役割を統一できるような取り組みをお願いしたい。	教育・市民	【教育】 校区公民館は、まちづくりの拠点であると同時に地域住民の生涯学習の場であることを踏まえ、合併後も校区公民館を拠点に社会教育活動等を実施していく。 【市民】 5町の公民館活動はコミュニティ活動と社会教育活動の2面性を有している。今後はそれぞれの活動を住み分けする事により、公民館の役割も統一できると思われる。
9	現在の鹿児島市にあるあいご会活動を合併後の市全域についても展開できるような取り組みをお願いしたい。	教育	あいご会組織は、社会教育関係団体であるので、行政が直接取り組む立場にないが、合併後も市全域で活動を展開できるように支援する。
10	現在、鹿児島市においては青少年の健全育成に関して複数の組織があるなど、複雑である。合併を機に、一元化できないものか。	教育	行政が設置する組織は、それぞれ目的が異なるので、一元化はできない。市民が主体となる組織については、「心豊かで元気あふれる『さつまっ子』育成市民会議」の実践活動に統合できるものから見直しを進める。
11	学校の校区については、合併により距離的に近い小学校があったり、隣接する学校同士がそれぞれ少人数校であったりすることへの対応が必要である。	教育	現在、松元町と行っている区域外就学については、合併後も実施していく。また、新たに他町からの申し出があればお互いに可能性について検討してまいりたい。
12	あいご会、町内会など自主的に組織されている団体に対して地域自治組織という行政主導の組織も出てきている。合併にあたって、両者の調整が必要なのではないか。	市民・教育	【市民】 地方制度調査会の答申等の情報収集に努めるとともに、必要に応じて対応してまいりたい。 【教育】 あいご会は子ども会を育成する団体である。あいご会と町内会活動との役割分担を明確にし、内容充実を図りたい。
13	市域が広くなれば、今以上に連帯感が希薄になるのではないか。5町においては、地域文化の伝承等において連帯意識が見られる。合併をいい機会にして、鹿児島市で薄れてきている地域組織について見直ししていく必要がある。	市民	活動を支援する補助制度で対応してまいりたい。
14	鹿児島市で実施している子育てサロンや延長保育等について、合併後も全市域で実施できるよう行政に取り組んで欲しい。	健康福祉	ふれあい・子育てサロンは、市社会福祉協議会を実施主体として、民生委員児童委員やボランティアの方々が中心となり実施されている事業である。本市としては、市社会福祉協議会に対して、合併後も全市域で実施していただけるようお願いしてまいりたいと考えている。また、延長保育等については、自主事業で実施している保育所において、全市域で国の補助基準を満たす場合は、合併する翌年度から補助事業とする予定である。
15	現在、地域の教育力が低下していると言われている。合併を機に生涯学習施設を充実していただき、地域の教育力の向上はもちろん、家庭教育の向上等に関する施策に取り組んで欲しい。	教育	鹿児島市の制度を適用して校区公民館を地域コミュニティの核とする施策を展開する。
16	合併にあたっては、女性の力による地域振興をもっと考えなければならない。そして、それを契機に、「地域振興は自分たちの問題である」と地域自らが自覚し、取り組んでいかなければならないのではないのか。	企画・市民	【企画】 第四次総合計画の中であらゆる分野への男女共同参画と意思決定過程への女性の参画の促進を目標の一つに掲げ、審議会等への女性の参画の促進や地域社会への男女共同参画の促進を図ることとしている。 【市民】 後継者育成のための講座を開催し、女性のリーダー育成にも努めてまいりたい。

17	市域が広くなると、それぞれの地域が、お互いに助け合い、住みよいまちづくりを推進する必要がある。そのためには、行政が行うことを待つのではなく、自分たちから積極的に行政に働きかけていくことが必要である。	市民	第四次総合計画に、まちづくりにおける市民と行政の協働を掲げているとともに、計画の推進にあたって、市民参画社会の実現を図ることを盛り込んでいる。その実現に向けて、このたび、「市民参画を推進する条例」を制定したところである。
18	合併すると面積が倍になることなどを生かして、心身の鍛錬の場にもなる林間学校の開設などに取り組む必要があるのではないかと。また、自然の散策ができるよう施設の整備にも取り組んで欲しい。	教育	少年の自然の家や宮川野外活動センター等で、自然に親しむ事業を行っている。更に施設の持つ自然環境を生かして自然の散策ができる場と機会を設定する。
19	小規模校や複式学級解消のために、学校の統合などの検討も必要だと思うが、その際は通学路の確保・通学バスの運行等にも十分配慮していただきたい。	教育	学校は地域住民にとって教育・文化等のよりどころでありどの学校でも地域に根ざしそれぞれの学校のよさを生かした特色のある教育活動が展開されていることから、学校の統廃合については考えていないところである。
20	合併を機に校区を廃止して、それぞれの学校に特色を持たせ、入学する学校を選択できるようにできないか。	教育	校区を廃止した自由な学校選択については、児童生徒の通学上の安全性や教職員配置、施設設備等の問題から実施は困難であると考えている。
21	家庭、学校、地域の教育機能を高めるために、その中心となる施設として市の教育センターは建設できないか。この施設を利用して社会教育の充実・一元化を図り、鹿児島人の育成に努めて欲しい。	教育	現在設置してある施設の活用を図る。
22	現在でも公民館講座に申し込んでも、抽選にはずれて受講できない状況にある。市が大きくなり、さらに受講することが難しくなることが懸念される。市民が多彩な文化活動、生涯学習ができるよう学習センターの建設を臨む。	教育	市民の多様な学習ニーズに対応するため、生涯学習プラザや地域公民館を始め、市内のあらゆる生涯学習施設の充実に努めるとともに、これらの生涯学習関連施設相互の連携を深めるなどして、市民の学習機会の拡充に取り組む。
23	合併すると5町の庁舎には空き部屋ができるのではないかと。その部屋を子育て支援活動を行っている人々に開放するとともに、町の情報に精通している専門家をそこに配置していただき、現在の鹿児島市域の方々が利用するとき山歩きの案内など、交流ができるように配慮して欲しい。	総務・健康福祉	【総務】 5町の庁舎機能については、今後、各面から検討していくこととしているところである。 【健康福祉】 5町の庁舎については、合併後、支所として位置付けられることから、今後、各部屋の具体的な用途について、各面から検討してまいりたい。
24	5町のお母さん方が鹿児島市の4つの保健センターまでいくとなると大変なので、保健センターの役割を持つ施設設置を検討していただきたい。	健康福祉	鹿児島市の4保健センターまで来なくても、5町の保健センター等で対応する方向で検討中である。
25	合併に伴い旧5町の役場の職員削減等もあると思うが、子育て支援の担当については、子育てに精通した人員配置をお願いしたい。	総務	人事異動に当たっては、能力主義と適材適所の原則に基づいて職員を配置しているところであり、この方針に基づき対応したい。
26	幼稚園の設置や料金、学区の問題等、住民にとって身近な問題について、情報提供をしていただきたい。	教育	合併協議会だより等を通じて情報提供を行っていく。
27	合併にあたっては、各学校の教具の配置などに配慮し、教育環境が均等になるようにして欲しい。	教育	各学校の教育環境については、現在も均等化に努めていくが、合併後においても十分に配慮していきたい。
28	合併を機に青少年の活動拠点となる施設を建設していただきたい。	教育	少年の自然の家や宮川野外活動センター等で、自然に親しむ事業を行っている。更に施設の持つ自然環境を生かして自然の散策ができる場と機会を設定する。
29	鹿児島市の第四次総合計画には地域別計画があるが、合併した場合にも地域別の特色を創出し、それを生かしたまちづくりに取り組んでいただきたい。	企画	地域別の振興方針については、市町村建設計画素案の中に盛り込んでいるが、新市は、多様な特性を備えた地域によって構成されるため、第四次鹿児島市総合計画における地域別計画をもとに、新市の地形等の自然条件、交通、都市機能の集積、土地利用状況、日常生活上の交流の範囲等の諸条件を踏まえ、9地域9地区に区分し振興を図ることとしている。

30	5町が有する文化財を市民に見ていただき、それらの活動を通じた文化財振興の施策が必要ではないか。そのためには、カゴシマシティビューを5町まで運行するなど、積極的な取り組みを望む。	教育	5町を含めた文化財については、今後とも保護・活用を図るとともに、周知・広報に努めていく。
31	吉田町、郡山町などでは、高齢者のほとんどが老人会に加入している。合併を機に他町を見習って鹿児島市の高齢者も積極的に加入すべきである。	健康福祉	今後の参考にさせていただきたい。また、老人クラブ連合会へもお伝えしたい。
32	合併すれば、教育行政組織も統合され、人件費の節減が期待できる。	教育	管理・指導に関する部門など効率化を図られるよう努めてまいりたい。
33	教育費の予算配分をするにあたっては、5町の地域の学校への割り当てにも配慮すべきである。	教育	学校への予算配分については、学校均等割、学級数・児童数割で行っており、合併後もこの方法で配分していく。
34	合併すると、5町の区域にある学校の教職員も、現在の鹿児島市内から通勤するようになるのではないか。学校・家庭・地域の連携を教職員がリードしていく観点からも、教職員が校区内に居住できるような施策が必要である。	教育	5町においては、各々10数戸～30戸程度の教職員住宅があるので、合併後も引き続き活用していく方向で、事務事業の調整方針項目に掲げ検討を行っているところである。
35	鹿児島市の公民館で行われている生涯学習活動が、5町域にも広がればいいと思う。	教育	市内の8地域公民館同様、各町の公民館ともネットワークを結び、市内全域で生涯学習活動が活性化するように努めていく。
36	5町にある学校が、適正規模という観点から統合等により切り捨てられないように、そして子どもたちが今までと同じような教育を受けられるように配慮する必要がある。	教育	学校は地域住民にとって教育・文化等のよりどころであり、どの学校でも地域に根ざしそれぞれの学校のよさを生かした特色のある教育活動が展開されていることから、学校の統廃合については考えていないところである。
37	地域間の子どもたちの交流活動ができるような施策が必要である。	教育	さつまっ子のつどいやリーダー研修会などには、市内各地域から青少年が集い、それぞれの地域の活動等を紹介し合うなどして交流を深めている。今後も地域間交流が深まるよう事業の企画運営の工夫を図る。
38	市域が広がっても市民みんなが共通な教育、生涯学習活動ができるよう配慮して欲しい。	教育	各町の公民館等との連携を図りながら、各地域での学習機会の充実を図るとともに、キュートピア・ネットでの情報提供に努める。
39	5町には山城などの貴重な文化財が残されている。それを総ざらいしていただきたい。そして、地域社会の先輩方の残した文化を見ることが本当の観光ではないかと考えるので、そういう観点からの施策の展開を望む。	教育・経済	【教育】 山城をはじめ各地に残されている文化財については、今後ともその保護・活用に努めていく。 【経済】 各町の魅力ある観光資源については、積極的に活用してまいりたい。
40	現在の鹿児島市の施設は、自主学習グループの数も多く、利用しにくい状況であるが、各市町それぞれが持っている施設を相互利用することにより、利用者の交流が深まり、それにより地域興しにもつながるのではないか。	教育	施設の利用については、より多く市民が、学習機会を確保できるよう条件の整備に努めている。今後でもできるだけ多くの市民が、利用できるようキュートピアネットの活用なども図っていく。
41	文化面・スポーツ面、アマチュアやプロ、高齢者や若者など、いろいろな人々が利用でき、そして交流ができるような施設を設置していただきたい。	教育	スポーツ・文化的イベントにつきましては、現在、鹿児島アリーナにおきまして年齢を問わず、様々な方々にご利用いただいている。また、ふるさと考古歴史館、近代文学館・メルヘン館の活用を今後とも図っていく。
42	桜島など5町の資源が鹿児島市の中で生かされ、市民として活用できることは素晴らしいことだと思う。これらの資源を生かして、交流を深める必要がある。	企画	市町村建設計画素案の都市像においては、合併による効果と都市の有するストックの活用を図り、南九州の中核都市としての総合力を高め、市民一人ひとりが生き生きと輝き、人・もの・情報の多彩な交流でにぎわう元気な都市と創造することとしている。
43	合併を機に、地域活動を行う団体への支援策の充実についても検討していただきたい。	市民	地域への活性化事業助成の説明や案内を行い、活用していただき、支援してまいりたい。
44	合併したら、5町の方々も現在の鹿児島市の公民館講座を受講できるよう配慮していただきたい。	教育	5町を含めた公民館講座の受講については、現行のとおり、市内に住むか通勤・通学する人を対象に募集を行うこととする。

45	5町にも素晴らしい文化があるので、お互いに積極的に交流をし、いい所をやり取りできるような施策の展開を望む。	教育	地域で生まれ、地域に根ざした文化を今後とも継承し、文化に関する情報発進し、文化振興に努める。
46	合併しても地域の特性を生かして、地域特有のものを育てていくという観点、施策が必要ではないか。	企画	地域別の振興方針については、市町村建設計画素案の中に盛り込んでいるが、新市は、多様な特性を備えた地域によって構成されるため、第四次総合計画における地域別計画をもとに、新市の地形等の自然条件、交通、都市機能の集積、土地利用状況、日常生活上の交流の範囲等の諸条件を踏まえ、9地域9地区に区分し振興を図ることとしている。
47	教職員の研修が市の中心部で行われると、それに出席するために周辺部の学校においては授業時間数が削減されるのではないか。土曜日・日曜日の有効な使い方を検討すべきではないか。	教育	土・日の実施は困難であるが、長期休業期間を活用するなど、研修のあり方については改善を図っている。

## アンケートに記載された意見等の検討状況

番号	意見の内容	所管専門部会	検討状況
1	県の景観が大好きなので、本当に合併して良かったなと思えるような市にしてほしい。全部の町並みをもう一度見直していただきたい。	建設	市町村計画素案において、「創造性豊かで周辺環境にも配慮した景観整備を行い、地域特性を生かした都市景観の形成に努めていくとともに、歴史的・文化的雰囲気にあふれた都市景観の保全、再生、活用を進める」としている。
2	1市5町の合併はメリットもあればデメリットもある。市民の負担も変わると思う。高い方は据え置き、低いほうはアップ又は十分調整を図られたい。	企画	編入合併であることから、基本的には鹿児島市民にとっては市民の負担が変わらず、5町の住民にとっては、税や水道料金など負担が増えるものもあれば、減るものもある。これらの調整に当たっては各専門部会で十分に議論をし、納得をしていただいた上で協議会に議案として提案している。
3	小・中学生や高校生、大学生を巻き込んで、合併に関する理解を深めるような取り組みが必要ではないか。	企画	本市では市政出前トークという制度があるので、依頼があれば説明に伺いたいと考えている。
4	5町の特色を生かすこと。今は各町で努力しているが、市に編入となると特色をなくすのではないか。市民主体の「市政」を心がけてほしい。	企画	最終的には1市5町の住民の方々に合併して良かったと言われるような合併にしたいと考えているので、そのことを念頭に協議に臨んでいるところである。
5	5町の特色を生かしたまちづくりをやってほしい。	企画	地域別の振興方針については、市町村建設計画素案の中に盛り込んでいるが、新市は、多様な特性を備えた地域によって構成されるため、第四次総合計画における地域別計画をもとに、新市の地形等の自然条件、交通、都市機能の集積、土地利用状況、日常生活上の交流の範囲等の諸条件を踏まえ、9地域9地区に区分し振興を図ることとしている。
6	外部の人から見れば、鹿児島の中核は桜島。やっとそれが統合された。桜島と一体化したまちづくりこそ特徴あるまちづくりにつながる。海岸線を生かし、人々が歩き回れる美しいまちづくりに取り組んでほしい。	建設	市町村建設計画素案において、「錦江湾・桜島の自然や歴史・文化とふれあうことのできる親水緑地や施設などの整備を促進するとともに、心豊かな日常生活空間や都市の豊かさを実感できる有機的な都市機能の形成を図る」としている。
7	長期的には、中核市から早く政令指定都市に向けて計画づくりをすべき。	企画	市町村建設計画素案の人口フレームにおいては、新市の平成26年の将来人口を621,000人と見込んでおり、合併を機に政令指定都市を目指す考えはもっていないところである。
8	素晴らしい発表・意見が出された。協議会においてはこれらの意見を最大限に生かせるようお願いする。	企画	市町村建設計画にできるだけ多くの意見が反映されるように専門部会にお願いしている。
9	5町の町民から「合併して良かった。」と言われるような末端に届くような施策を考えてほしい。	企画	市町村建設計画素案の都市像において、「人とまち 個性が輝く 元気都市・かごしま」という都市像のもと、新市の速やかな一体化を図り、新市の新たな魅力と特性を最大限に活用し、住民の福祉の向上とまちの総合的発展を図るとしている。
10	合併に関する市民意識の高揚を図る必要がある。	企画	市政出前トークで依頼があれば説明に伺いたいと考えており、また、7月から8月にかけて市内30箇所ですべて市町村建設計画素案及びこれまでの合併協議の経過を説明し、市民の方からご意見・ご要望をお寄せいただく市民意見交換会を開催するなど市民の合併に関する意識の啓発に努めてまいりたい。

11	桜島を生かした滞在型観光の振興を図る。湯之平展望台を整備し、夜の市街地が眺望できるようにする。また、「夜景」をキーワードに、函館と姉妹盟約を結び、「北の函館、南の鹿児島」として交流人口を増やす。	経済	桜島については、今後とも、これを最大限に生かした観光地としての魅力づくりを進めてまいりたい。
12	錦江湾を生かした施策として、平川から喜入まで湾岸沿いに遊歩道、サイクリングコースを造る。(将来は、指宿や加治木方面まで延ばす。)	建設	ご意見として、承りたい。
13	生見海水浴場を再生させる。	教育	毎年7月第2土曜日に海開きし、8月31日まで海水浴、キャンプが楽しめる状況にある。